

平成31年度寿楽荘事業計画・収支予算(抜粋)

基本方針

働き手の確保は極めて深刻と言わざるを得ない状況であり、利用者サービスとは別に厳しい運営となっている。定年延長や再雇用は介護職員では体力的な限界もあるうえ、働き手の希望が自身の体調を崩さない範囲となる場合、将来を見据えた若年層の雇用促進は最重要課題であり、新規採用に関しては、将来性ややり甲斐のある職種であること以外にも、収入面や年間休暇日数をセールスポイントとして雇用に繋がらねばと考える。その様ななかで新たな働き手確保の方策として、外国人労働力をより重要視していく。昨年度より行っているEPA介護福祉士候補生受入れのほか、“技能実習制度”や“特定技能・介護”による労働力確保を法人全体として推進していく。

入所者に関しては平均要介護度が4.2を超え、各職種とも昨年以上に細やかなサービス提供に取り組む必要がある。限られた人員でのサービス提供となるので、効率性も考慮した日常業務の遂行により、利用者・家族に誤解を生まないサービス提供に努める。このような状況でも、寿楽荘は各職員が最大限の力を発揮し連携をとることで、50年間受け継がれてきた「愛情、人の和、信頼関係の中での慈悲(慈 = 他に楽を与える、悲 = 他の苦を除く)を理想に利用者自身が主体となって生活をエンジョイできる施設」を目指します。

1 重点目標

組織力の強化

それぞれの立場において資質の向上・職種間の連携強化に努めるほか、親和会活動なども利用し協調性を養い信頼関係を構築します。

創立時よりの理念(理想)、目標の周知と再認識

「愛情、人の和、信頼関係の中での慈悲を理想に利用者自身が主体となって生活をエンジョイできる施設を目指していきます。」これら理念と目標の周知・再認識に努めます。

介護報酬各種加算を請求できる体制づくりと稼働率の確保
(財政基盤の安定化・強化)

人材確保のための取組み・体制整備

若年層の雇用促進と再雇用制度の充実および外国人労働力の確保。

2 計画

1. 中長期計画に添った施設稼働率96%(要介護度4.0)、ショート稼働率100%の達成を目指します。

2. 老朽化設備、機器等の計画的な更新と修繕による対応を図ります。

(利用者の安全面に配慮した機器への変更)

3. 若年層の雇用促進と再雇用制度の充実

ハローワーク・教育機関と連携し町内・外の新卒者並びに若年層の雇用の促進を図ります。また、再雇用制度については誰もが安心して長く働けるよう環境整備に取り組みます。

4. 外国人労働力の確保

EPAフィリピン人介護福祉士候補生の就労支援とともに、インドネシア人介護技能実習生の受入れ、介護分野における特定技能在留資格の動向にも注目し労働力確保を図ります。また外国人労働力確保には、既存職員や地域住民の理解・協力も不可欠となるので双方の調整に努めます。

5. 自立と尊厳ある生活支援

(傾聴による生活支援と利用者処遇の更なる向上)

6. 職員の更なる資質向上に向け、キャリア段位制度の活用、双葉会研修規程に基づいた研修への参加を計りながら職員の育成に努めていきます。

7. 現場職員の負担軽減・業務省力化につながる取り組み

利用者の重度化により内容に偏りのある行事については見直しを行いません。

詳細は事業計画書をご一読ください。

資金収支計算書(当初予算)		
勘定科目		寿楽荘会計
事業活動収入計		843,003,000
事業活動支出計		816,195,000
事業活動資金収支差額 (-)		26,808,000
施設整備等収入計		0
施設整備等支出計		48,829,000
施設整備等資金収支差額 (-)		-48,829,000
その他の活動による収入計		23,916,000
その他の活動による支出計		1,500,000
その他の活動資金収支差額 (-)		22,416,000
予備費支出		395,000
当期資金収支差額合計 (+ + -)		0
前期末支払資金残高		373,310,178
当期末支払資金残高 (+)		373,310,178